

船舶事故調査報告書

平成24年12月6日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	衝突
発生日時	平成24年5月4日（金、祝日） 11時15分ごろ
発生場所	長崎県壱岐市勝本港西方沖 勝本港辰ノ島防波堤灯台から真方位278°5.620m付近 （概位 北緯33°52.0′ 東経129°37.1′）
事故調査の経過	平成24年5月7日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 遊漁船 ^{かいしやう} 海笑丸、4.9トン 293-28214福岡、個人所有 11.94m (Lr) × 2.72m × 0.83m、FRP ディーゼル機関、213.30kW、平成6年4月 B 小型兼用船 ^{しょうけい} 将佳丸、3.0トン NS3-74440（漁船登録番号）、個人所有 9.26m (Lr) × 2.21m × 0.87m、FRP ディーゼル機関、154.45kW、昭和59年12月6日
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 45歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成15年4月14日 免許証交付日 平成20年4月11日 （平成25年4月13日まで有効） B 船長B 男性 39歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成16年5月14日 免許証交付日 平成21年2月6日 （平成26年5月16日まで有効）
死傷者等	A なし B なし
損傷	A 右舷中央部外板に亀裂及び擦過傷 B 左舷船尾部外板に擦過傷
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、釣り客6人を乗せ、勝本港西方沖において、船長Aが、魚群探知機（以下「魚探」という。）の映像

	<p>を見ながら釣り場を定め、漂泊して釣り客に釣りを行わせ、釣果が良くなければ移動することを繰り返しながら遊漁をしていた。</p> <p>船長Aは、釣り場を移動するため、GPSプロッター及び魚探を見ながら手動操舵により約6ノットの速力で航行中、ふと前方を見たところB船の船尾を目前に視認し、衝突を避けようとして速力はそのままで舵を左一杯としたが、平成24年5月4日11時15分ごろA船の右舷中央部とB船の左舷船尾部とが衝突した。</p> <p>B船は、船長Bが1人で乗り組み、同乗者4人を乗せ、勝本港西方沖において、船長Bが、B船を漂泊させ、同乗者4人と共に釣りをしていたところ、船尾方約200mにB船に向かって接近してくるA船に気付いた。</p> <p>船長Bは、A船がB船を避けてくれるだろうと思い、しばらく様子を見ていたところ、A船が約50mまで接近したので衝突の虞を感じ、大声を出して注意を喚起したが、B船とA船とが衝突した。</p> <p>A船は、後進してB船に近づき、船長Aと船長Bは、お互いに負傷者がいないこと、両船の航行に支障がないことを確認して連絡先を交換したのち、遊漁及び釣りをそれぞれ再開することとし、船長Aは所属する遊漁船組合に衝突の事実を連絡した。</p> <p>A船及びB船は、それぞれ遊漁及び釣りをしばらく行っていたが、遊漁船組合から通報を受けた海上保安庁の指示により、遊漁及び釣りを中止して、壱岐市郷ノ浦港に入港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北、風力 3、視界 良好</p> <p>海象：波高 約2m</p>
その他の事項	<p>船長Aは、付近に知人の遊漁船がいることを知っていたが、それ以外の船はいないものと思っていた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>A あり、B あり</p> <p>A なし、B なし</p> <p>A なし、B なし</p> <p>A船は、勝本港西方沖において釣り場を移動中、船長Aが、GPSプロッター及び魚探を見ながら航行し、見張りを適切に行っていなかったことから、B船に衝突直前に気づき、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、勝本港西方沖において漂泊中、船長Bが、A船がB船に接近してくることに気付いたものの、いずれ航行中のA船がB船を避けるものと思いき、B船にA船が約50mに接近するまで漂泊を続けていたことから、A船と衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、勝本港西方沖において、A船が航行中、B船が漂泊中、船長Aが見張りを適切に行っておらず、また、船長BがB船にA船が約50mに接近するまで漂泊を続けていたため、両船が衝突したこと</p>

	により発生したものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 周囲の状況は常に変わることを念頭に置き、船はいないとの思い込みを避け、見張りを適切に行うこと。・ 漂流中に他船が接近してくることに気付いたときは、起こりうる最悪の事態を想定し、前広に避航動作をとること。